

いきいき かぐらざか

東京厚生年金病院 がん診療情報誌



〈れんげ草〉

れんげ草には「心が和らぐ、苦しみを和らげる」という花言葉があります。「みなさんが自分らしく過ごせるように」という意味をこめて情報誌を作成しております。

東京厚生年金病院 がん診療委員会

「東京都医療連携手帳」の紹介

泌尿器科部長 赤倉 功一郎

現在では、早期発見や治療法の進歩により、がんにかかったからといって直ちに命にかかわるようなことは少なくなっています。したがって、がん患者さんは、長期間にわたって、きちんと経過を追って治療を受ける必要があります。そこで、手術などの治療を行った専門病院とかかりつけ医療機関（開業医の先生）とが協力して、専門的な医療と総合的な診療を適切にバランスよく行っていくことが大切です。

東京都では、肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん、前立腺がんに対して、東京都全域で共通して使える「東京都医療連携手帳」を作成しました。

この手帳には、

- ①患者さんの病状、治療内容などの診療情報
- ②今後5-10年間の診療予定表
- ③診療予定表に基づく受診日の診療記録が書き込めるようになっていきます。

日常の診療や投薬はかかりつけ医が行ない、治療を行なった専門病院へは節目に受診していただきます。かかりつけ医や他の医療機関の受診する場合には、連携手帳をお持ちいただければ、治療内容が正確に伝わり診療に役立ちます。

この手帳を使うことによって、

- ①診療予定表により、「いつ」「どこで」「どんな」診察を受ければよいか分かります。
- ②医療機関同士が患者さんの治療経過を共有できるので、より適切な診療が可能になります。
- ③患者さんは安心してかかりつけ医の診療を受けることができ、通院時間や待ち時間が短縮し、通院の負担が軽減されます。

④他の医療機関を受診する際に、診察する医師が手帳から患者さんの病状やこれまでの診療状況を把握することができ、迅速で適切な対応が可能になります。

⑤保険薬局に手帳を持参すれば、より適切な服薬指導を受けることができます。などの利点があります。

東京厚生年金病院でも、東京都認定がん診療病院として、この東京都医療連携手帳を使用して、医療連携を推進しています。分からない点については、主治医または地域医療連携室にお尋ねください。



外来化学療法室について

化学療法(抗がん剤)については、これまでは抗がん剤の投与方法が複雑で、副作用の管理も大変なため、入院で行っておりました。そのため患者様にはご家庭での日常生活を制限させていただかなければなりませんでした。

しかし近年、抗がん剤投与方法の簡略化や副作用管理の進歩などのおかげで、入院することなく、外来で化学療法が行えるようになりました。

外来化学療法の利点は、自宅で日常生活を続けながら治療を受けられることです。これにより治療のストレスが軽減でき、副作用なども改善することが期待できます。また、仕事を続けながら治療を受けることもでき、経済的にもより安定した生活を続けることができます。

当院ではH20年4月より外来化学療法室を開設しました。各診療科の医師に加え、化学療法の専門的知識を有する看護師・薬剤師・医師がチームを組み、さまざまな疾患に対し外来で「安全に、快適に、短時間で」化学療法を行っております。

外来化学療法の対象となる疾患は？

当院の外来化学療法室では肺癌、乳癌、食道癌、胃癌、大腸癌、膀胱癌・前立腺癌など泌尿器疾患、子宮癌・卵巣癌など婦人科疾患、リウマチなどの治療を行っています。治療内容やお体の具合により外来治療ができるか検討していますので、ご不明な点は主治医にご相談下さい。

治療実績

治療平均：月約210件

外来化学療法での治療の流れ

①受診手続き→②採血室で採血→③各科外来で医師の診察(主治医の診察、採血結果、体調などをもとに当日の治療を行うか確定します)→④外来化学療法室で治療→⑤会計後帰宅となります。

外来化学療法室の設備

液晶TV付きリクライニングチェア5床、ベッド1床を設けています。

TVを観たり、読書をしたりしながらなどご希望の状態ですらリラックスして治療を受けて頂けます。また本棚にはパンフレットを設置していますので必要時情報の活用にお役立て下さい。



外来化学療法室スタッフ

医師1名、看護師2名が担当しています。副作用に対する予防・対処方法などについてアドバイスをさせていただきます。また治療上のお困りの点や不安なことなどいつでも相談にのらせて頂きますのでご相談下さい。

患者様がよりよい状態で治療が継続できるように支援していきます。

早期胃がんの内視鏡治療

内科部長・内視鏡センター長 松本 政雄

胃癌は日本人に最も多いがんの1つです。胃がんの治療の原則は胃がんのできた胃と転移巣を含め切除する手術となります。検診の発達などにより、胃がんの約50%が早期（胃の表層（粘膜と粘膜下層）に局限した）がんとして見つかり（欧米では20%）、早期がんでは95%以上で転移がないとされます。リンパ節転移のない早期がんでは、胃の表面のがん（原発巣）を治療すれば治ってしまふことがわかってきました。そのため内視鏡的治療を選択することが一般的です。手術と比べ体への負担がより小さい治療です。



内視鏡による治療法としては、PDT（光線力学的療法）やレーザー焼灼（しょうしゃく）などもありますが、もっとも一般的に行われている内視鏡による治療法は病変のある粘膜を切除する方法です。内視鏡による治療は、開腹手術に比べて切除部位が小さく、出血や痛みも少ないため患者さんにとって負担が少ないことが大きなメリットです。切除した部分は取り出し、組織を調べ、場合によっては追加切除を行ってがんの病巣（びょうそう）を完全に切除します。切除の方法としては、ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術（Endoscopic mucosal resection : EMR）、内視鏡下粘膜下剥離術（Endoscopic Submucosal Dissection : ESD）などがありますが、最近は完全な切除を目指して内視鏡下粘膜下剥離術を行うのが一般的です。

一方、内視鏡治療の合併症としては出血と穿孔（小さな孔があくこと）がありますが、これらが生じた場合にも、内視鏡を用いた止血術やクリップを用いた穿孔部の閉鎖術が行われ、外科的な開腹手術が必要になることはほとんどなくなりました。

また、通常の検査と比べて時間が長くなるため、安定剤や軽い麻酔を使用し、苦痛のないようにできるような工夫をします。入院期間は約1週間です。

完全に切除したとされる場合でも、術後は定期的に胃内視鏡検査を行い、再発していないかどうか検査する必要があります。



東京厚生年金病院のご案内



病院の理念

私たちは、患者さまの立場に立った親切で心温まる医療を提供し、地域住民が幸せで健康な生活を送れることに寄与します。

基本方針

1. 地域医療機能を推進します。
2. 患者の権利を尊重し、安全で心温まる医療を提供します。
3. 住民の健康維持増進に寄与します。

【診療科】 28診療科

整形外科／形成外科／リハビリテーション科／リウマチ科／外科／脳神経外科
脳神経血管内治療科／内科／消化器内科／循環器内科／呼吸器内科／腎臓内科
糖尿病内分泌内科／血液内科／緩和ケア内科／皮膚科／泌尿器科／産婦人科
眼科／耳鼻咽喉科／小児科／精神科／放射線科／歯科／歯科口腔外科／麻酔科
病理診断科／救急科

【病床数】 520床

【外来診療のご案内】 診療受付時間 8：30～11：30（土曜・日曜・祝日は休診）
診療開始時間 9：00～

- ・ (財)日本医療機能評価機構認定病院
- ・ 東京都認定がん診療病院
- ・ 東京都在宅緩和ケア支援センター
- ・ 臨床研修指定病院
- ・ 東京都CCUネットワーク加盟施設
- ・ 東京都指定二次救急医療機関

【交通案内】

〒162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1
東京厚生年金病院 TEL 03-3269-8111（代）



◆ JR 総武線（中央線各駅停車）

飯田橋駅東口 徒歩5分

◆ 東京メトロ 東西線・有楽町線・南北線

飯田橋駅（B1出口） 徒歩4分

◆ 都営大江戸線

飯田橋駅（C1出口） 徒歩3分

* 当院に一番近い地下鉄出口「C1」は、都営大江戸線利用の場合のみ便利です。地下鉄で車椅子等でお越しの方は、南北線後楽園駅寄りの改札前にある「地上行きエレベーター」をご利用ください。